

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200054		
法人名	社会福祉法人 さゆり会		
事業所名	グループホーム大浜	ユニット名	
所在地	長崎県五島市浜町142-1		
自己評価作成日	2024年 6月 27日	評価結果市町村受理日	2024年 8月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijevosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 7月 10日	評価確定日	2024年 8月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者一人一人をありのままに受け入れ、その人が持っている力を引き出しみんなと一緒にゆっくり、楽しく、穏やかに生活できるようにしたい。 ・働きやすい環境の中で、ノーリフティングを導入し環境整備で福祉用具の導入や研修に参加し人材確保や育成に取り組んでいく。 ・医療的ケア・看取りケアの中で感染症対策や看取りケアの統一と家族、主治医、訪問看護師との連携を大事にする。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホーム大浜”の玄関前に、海で拾ったカラフルな“浮き”で作成したカエルが飾られており、入居者の方々、ホームに来られる方々に好評である。花作りが好きな職員も多く、庭には季節の花(藤の花・向日葵など)や野菜(玉ねぎ、芋等)が育ち、入居者の方々も一緒に花を眺め、野菜を収穫している。リビングの畳で洗濯物をたたみ、料理の下ごしらえ等も一緒に楽しまれ、近くの海まで散歩に行かれている。同じ建物内にデイサービス・宅老所(有料施設)を併設しており、デイサービスが休みの日に、デイのリハビリ機器を使用したリハビリを行い、ホームの看護師、デイの看護師と介護職員との協力体制もできている。施設長(ホームの管理者)を中心に職員は結束しており、職員の意見やアイデアを活かして日々の楽しみや役割作りに繋げている。ご自分でお墓参りに行けない方には職員が代理で墓参りに行き、ご本人にLINE電話でお墓を見ていただき、ホームからお参りができた方もおられる。日々の食事も大切にされており、季節に応じた旬のものを提供し、毎朝の豆乳ヨーグルトや手作りのおやつも喜ばれている。今後も更に家族と一緒に楽しめる企画を行い、入居者の方々の笑顔を増やしていく予定である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、スタッフは一緒に楽しく穏やかに共に育つ家庭の場として家族に囲まれ居心地良く過ごすことができ、敬愛の気持ちで関わることができるようサービス提供している。	「一人一人をありのままに受け入れて、その方の持てる力を引き出し、みんなと一緒にゆっくり、楽しく、穏やかに生活していきます」という理念を大切にしている。入居者の方々の思いも違っており、日々、一人一人をありのままに受け入れて、楽しみや役割作りに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加しています。コロナ禍前は地域の行事に参加したり、ホーム行事に参加依頼していましたが、コロナ5類移行後も交流が難しい状態です。5月期、小学校の運動会に参加できました。	近所の方から芋の苗や野菜の差し入れがあり、お礼を伝えている。パラモンキングの応援に2人参加でき、法人内の地域貢献委員会で海岸のごみ拾いをしている。2023年4月に大浜小学校の生徒が花（プランター）を持参してくださり、6月は大浜小学校地区運動会で宝探しに参加できた。7月は子ども達がホームでソーラン節や手遊び、歌などを披露してくださり、入居者の方々は涙ぐまれていた。2024年3月で大浜小学校は閉校し、今後は本山小学校との交流方法を検討していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な運営推進会議の中で理解していただくよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者のヒヤリハットや事故報告、職員の研修報告を行い、委員の方に意見を伺いながら役立てています。	2023年7月からホームでの対面会議を再開している。ホームの取組みや行事、研修報告、事故報告、外部評価結果等を報告し、参加者の方々からご意見をいただいている。デイの利用状況も共有し、介護保険の理解に繋げており、地域に必要なもの（店など）や地域情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、必要な時に話し合いができる関係ができています。	五島市役所に管理者が訪問し、各種書類を提出している。2024年改正情報（加算等）を五島市からいただき、日々の参考にしている。五島市からノーリフティングケアに関するヒアリング調査の依頼があり、福祉用具等のノーリフティング対策を報告予定である。	

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は絶対にしない方針ですが、職員1名で対応するときは、徘徊される利用者の事故やケガが起きないように玄関を施錠する場合があります。普段は施錠せず対応できています。</p>	<p>3か月に1回以上「リスク委員会」と「身体拘束適正化委員会」「虐待防止委員会」を一緒に行っており、今後も委員会記録に職員の意見を追記予定である。前回の外部評価以降、「身体拘束等適正化指針」を職員全員で読み直し、「身体拘束はなぜ禁止なのか」「身体拘束の弊害」等を共有している。入居者の意思決定を大切にしたい声かけを行い、日々の役割も作られている。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について、日々の業務の中での気づきなどミーティング時に意見を出し合い、意識し虐待が見過ごされないよう心がけています。</p>	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見制度などについて研修会などで学ぶ機会を持ち、必要とされる入居者の方により良い支援ができるように努めたい。</p>	
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関する説明は、まず管理者が行い、理解し納得していただけるよう努める。</p>	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者には、日々のケアを通じて意見を聞き、ご家族には請求書発送時や電話連絡時など近況報告を行っています。</p>	<p>市内の感染状況に応じて「居室での面会」「窓越しの面会」等を検討し、面会時や電話で暮らしぶりや健康状態等を報告している。全ての家族とLINEで繋がっており、テレビ通話を楽しまれる方もおられる。コロナ前は敬老会やクリスマス忘年会等で家族と食事をしながら、会話を楽しまれており、今後も家族と一緒に花火大会を楽しむなどの方法を検討していく予定である。</p>
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングには、全員発言できる機会を設けている。意見が言えない場合などには事前に聞き対応している。同じ建物内のデイサービス職員からの意見も取り入れ協力体制が取れている。</p>	<p>職員の異動や退職等もある中、管理者と副主任を中心に職員は結束している。勤務体制等を含めて意見を伝えやすい環境が作られ、行事、レク、リハビリ等の職員のアイデアは多い。最低年2回は職員との個別面談を行い、個々の目標を共有している。法人の理学療法士が「ノーリフティングケア（腰痛予防対策とケアの質の向上）」の研修を行い、入居者と職員の負担軽減に繋げている。</p>

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度が導入されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は全職員平等に与えられている。資格取得についても職員に勧めている。また、職員それぞれに役割を分担して責任感を持って取り組むようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で行われる研究発表会などでサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は担当を持つことで信頼関係を築き、困っていることや不安など相談しやすい関係づくりをしている。また、出来るだけ本人様の要望を聞くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と職員は、家族が困っていることや不安、要望などを受け止め、安心して家族を預けていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談者は、在宅サービスを利用されている方々ばかりである。入所を待機されている方々には他のサービスや施設紹介をして安心していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のできることを見極め、できることはしていただきできない部分のお手伝いをしていく。出来た時には一緒に喜び、感謝の言葉をかけ生活にメリハリをつけて行けるよう努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時など近況報告を行い、必要時は電話連絡を行い情報交換を行っています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や自宅へ戻りたいなどの要望は、できる限り応えるように支援に努めています。	出身地や生活歴を把握し、近くの海を散歩しながら昔話をされている。同郷の方同士で部屋を行き来し、談笑される姿も見られ、食事の席は同郷の方や知り合いの方を同じテーブルにしている。自宅やお墓参りに行かれる方もおられ、馴染みの観光名所にお連れしている。家族や知人の方も訪問して下さる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人たちで同席し、作業やレクレーション、食事ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の初盆には、お供えをし、ご家族のグリーフケアも務めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者には、全職員で対応するが、特に担当はより密に関わり本人の思いを知り、要望に応えられるようにしている。また、全職員で情報共有している。	入居時までにセンター方式を含めたアセスメントを行い、暫定プランを作成している。生活歴等から、ご本人のお好きな事や得意な事を把握し、日々の会話や行動から思いや意向を把握している。意思疎通が難しい方も表情やしぐさでお気持ちを察すると共に、家族との情報交換を続けている。「お手伝いをしたい」「家族に会いたい」等の思いとともに、「長生きしたい」「びんびんころり、ぼっくりいきたい」等の思いも受容している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族に聞き、ケアに繋げるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの生活歴、現在の状況を把握し、ご本人ができる事の見極めを行っている。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の方をありのままに受け入れ、家族との情報交換を密に行い、ミーティング時に全職員で話し合うことで色々な意見やアイディアを取り入れ、作成し共有している。</p>	<p>センター方式等に記録し、生活歴や趣味、信仰、各活動の「できる事」「できない事」「できそうな事」を共有している。24時間シートも活用し、ストレッチ、口腔体操、ご本人の役割と共に、ご本人の「意向・好み」等を整理している。「認知機能」「寝返り」「起き上がり」「立ち上がり」「歩行」等の能力を評価し、介護計画に連動させている。</p>	<p>今後もアセスメントに、「見守り」「一部介助」の詳細を記入するとともに、家族と一緒に介護計画を話し合い、家族からの情報共有を職員間で徹底していきたいと考えている。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアの内容や日々の様子、気づきは個別記録に記入し全体で申し送りノートを活用し全職員で情報共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>足裏マッサージ機、小豆カイロ、アイスノンを使用し、個別のニーズに合わせて柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>大浜地区の老人会、消防団、小学校などの協力を得ながら地域の行事や施設の行事に参加してもらい日々の暮らしを楽しめるよう努めている。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>以前からかかっている医療機関を継続し定期的に受診しています。受診時は、職員が必ず同行し情報交換を行い気軽に相談や協力が得られる関係ができています。</p>	<p>毎月の往診があり、通院介助（精神科、整形等）は減っている。週1回、看護師が勤務しており、色々な相談や対応をしてくださり、毎週の訪問看護も利用している。センター方式C-1-1を活用し、心身の情報を丁寧に確認している。受診時はバイタルチェック表を主治医に見て頂き、他科受診時も含めてアドバイスを頂いている。家族が受診介助をした場合も、受診結果を記録している。体調変化時は主治医や訪問看護師が来て下さり、職員の観察力もあり、早期対応に繋げている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護と委託契約し週1回訪問して頂いており、介護職と看護職との連携は密に取れている。入居者の異常時にはすぐに連絡し連携が取れている。</p>		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は、面会に行き主治医、担当看護師、ご家族との情報交換を行っています。早期の退院に向けても積極的に進んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応について、早い段階から本人様とご家族の意見を聞いている。主治医、訪問看護師などの支援方針は共有している。今後も、ご家族には、施設での看取りをさせて頂く予定です。	「ここで最期まで…」 「ここがよかよ」と言われる方が多く、健康管理書（事前確認書）を頂いている。24時間の往診も可能で、家族と他の入居者も一緒に看取りケアが行われ、ご本人の浴衣や洋服を着て頂く事もできた。最期に寄り添って下さった入居者の方々の「寂しい」「長く生きて良かったね」「自分もこがんなとかな」等の思いに職員は寄り添っている。看取りの時期は管理者等も泊る時があり、他の職員も待機し、職員全員で誠心誠意のケアが行われている。「眠りスキャン」というセンサーで、睡眠中の呼吸状態の観察ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、毎年定期的に訓練や研修を行い、全職員が訓練に参加し研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を実施している。周辺住民への協力をお願いしている。	2023年11月から消防署、消防団、地域の他の2つのグループホームと夜間想定での訓練が再開している。消防団は地域の3つのホームを1年に1か所の割合で参加して下さり、地域の2つのホームと協定書を取り交わし、自動火災連動装置に2つのホームを登録し、津波警報時は「グループホーム夕波」に避難予定である。食料等（五目御飯50食・山菜おこわ50食・わかめご飯50食・パン、天然水2リットル48本）、携帯ラジオ等を準備し、BCP（事業継続計画）も作成しており、居室の掃き出し窓から避難することもできる。	年2回の実施が求められている火災訓練及び避難訓練に合わせて、BCP（事業継続計画）に関する研修を年1回実施し、年1回はBCPの訓練を実施予定である。夜勤者が1人であり、今後も夜勤専従職員も含めて訓練の機会を作っていく予定である。

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は声かけも優しく、ご本人のペースに応じた支援を続けている。排泄時の声の大きさに注意し、居室でオムツ交換の際もドアを閉め、入浴時を含めて希望時の同性介助をしている。入居者の健康状態や個々の私情や事情、排泄状態の申し送り時はインシヤル等を用い、個人情報管理の指導も行われている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は手作りで、昼夜の主食・汁物・デザートもホームで作る。副食は冷凍真空パックで届いたものを解凍調理し、ソフト食も届いている。日曜日はカレーの日にしており、入居者も下ごしらえ（じゃが芋の皮むき、卵の殻むき等）、盛り付け、配膳、食器洗い、食器拭き等をして下さる。おやつは手作りが多く、どら焼き・ケーキ・お団子・羊羹等を楽しまれ、毎朝、豆乳ヨーグルトを飲まれている。希望に応じて部屋食の方もおられる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人口腔ケアを実施している。自分でできる方も最後は職員が確認し清潔の保持に努めています。舌の点検も忘れず、口臭に気を付けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、本人に応じた支援ができています。日中は、ほとんどの方がトイレやポータブルトイレを使いパット内の失禁も減るようにしています。	排泄パターンを把握し、日中はなるべくトイレで排泄できるようにしている。布の下着を使用する方もおられ、必要に応じて事前誘導している。居室にポータブルトイレを置き、失禁が減っている方もおられる。トイレ等のドアを閉め、ご本人から見えない所で待機するなど、羞恥心の配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い水分量を調整したり毎朝の豆乳ヨーグルトの提供を行っている。歩行ができる方は、散歩の距離の調整やトイレでの座位時間を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めています、体調不良や受診日など、日にちの変更を行い対応しています。また時間帯や順番、その日に確認し入浴していただく。	機械浴を設置し、1人ずつお湯を入れ替えている。入浴時は湯温などの希望に応じ、職員との会話を楽しみ、歌も聞かれています。職員体制や行事などもあり、週3回の入浴を週2回にしているが、毎日の陰部洗浄や清拭を行い、日々の爽快感に繋げており、失禁時のシャワーもしている。自立支援で、「ご本人が洗える部位」「介助すべき部位」の見極めが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせ、消灯時間をずらしたり、テレビやラジオを使用している。夜間はゆっくり眠れるよう、尿器を使用したり、オムツを使用したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、薬の変更があった時は、その日のうちに職員間で申し送りを行い情報共有に努めています。また、変更後の状態観察を行い主治医や看護師に報告できるようにしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のできる事、好きなこと、得意なことをしていただくことで、日々の生活が楽しい時間になるよう努めています。ドライブや近所に散歩に出かけたり気分転換に繋がっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員付き添いにより散歩したり、近くの郵便局、大浜海岸まで出かけたりしている。お祝いの日に家族協力のもと自宅に帰り会食を楽しまれています。	庭のプチトマト、ピーマン等を収穫し、職員と水やりしている。海を眺めながら「ミナ取り」等の思い出話になることもある。住吉神社に初詣、富江町の鯉のぼり見学、桜の花見、洋服などの買い物とともに、自宅に外出や外泊等をされる方もおられる。コロナ以前は荒川温泉の足湯等に行かれていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方以外は、お金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に合わせ、電話を掛けたりしている。家族にはLINE登録していただき、顔を見ながらの通話を楽しまれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、見える所にカレンダーを掲示している。皆が過ごす居住スペースには季節ごとの行事に合わせて飾りを変えている。	花作りが好きな職員が多く、庭には季節の花（藤の花・向日葵など）や、野菜（玉ねぎ、プチトマト、ピーマン、芋等）が育ち、一緒に収穫している。リビングでは入居者の希望に合わせて室温調節を行い、室内に入る光を調整している。低濃度オゾン発生装置を設置し、除菌駆除の機械も購入し、夜中の0時に2時間稼働している。適宜換気も行い、感染対策を続けている。畳で洗濯物たたみをされたり、廊下の椅子で日向ぼっこをされる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席順を気をつけたり、廊下の2か所にソファを置くなど、居住の工夫はできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスやテレビ等、思い出の物品を置くことで、自宅に近い空間になるように工夫し、居心地良く過ごしてもらえるよう努めている。	全居室、電動ベッドである。馴染みのタンス・テレビ・布団・いす・日記帳・ぬいぐるみ・植物等を持ち込まれ、家族の手紙や写真、ご本人の作品（塗り絵）等を壁に貼っており、洗濯物をタンスにしまう方もおられる。視覚障害（全盲）の方は、ボタンを押すと時計の時間が分かるものを家族が持参して下さり、「花が好き」という方には居室から見える所に花壇を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体バリアフリーの構造となっており、トイレに廊下浴室等安全に移動ができる。場所等が分かるように札等付けている。		